

The Tables Turned—発想の転換を Aug.2018

通訳道場★横浜CATS主宰、持続可能な医療・農業・教育のための通訳者 冠木友紀子

撮影：ワルシャワ近郊

ひとは生まれ変わる、生きながら。

人生は一回きり？それとも人は生まれ変わる？

いや、生まれ変わるとしてもこの名前での一生はこの一回きり…？

そういうことは死んでみなくちゃわからないし、死んじゃったらわからないかも！

…なんて思っていました。でも、今は人は生きてまま生まれ変わり続けるのだと感じています。それが面白くて、死んだあとどうなるかを気にしている場合ではなくなりました。

どういうことかと言いますと…

昨年、友人Tさんの紹介でEさんに会いました。その後、Eさんは通訳道場にご参加。お話しすればするほど共通点が見つかり、道場内外の用事でほとんど毎日連絡を取り合うようになりました。

そんな時、ふと一昨年のことを思い起こしてぎょっとしました。

一昨年の今頃、私はEさんがこの世にいることすら知らなかったのです。

そんな自分はもう前世としか言いようのないほど遠くに感じら

れました。今の自分とは別人のような気さえしました。

たとえ自分のアタマであなりたい、こうなりたい、とどんなに途方もない想像をして叶えたとしても、出会いによる変化には適わない—そう感じました。

この出会いには生まれ変わりほどのインパクトがあったのです。

もちろんそんな出会いばかりではないでしょう。ほとんどインパクトを残さない出会いもあれば、その人の存在は知っているのになかなか会えない場合もあります。

そんな違いを縁がある、ない、深い、浅い、と言うのかもかもしれませんね。

でも、あなたが誰かに作り出す出会いのなかから、それぞれが生まれ変わるくらいの体験が生まれる。

それってちょっと面白いことだと思いませんか。

実は私もフランスの方とイギリスの方のご縁を取り持ち、ポーランドで面会を叶えるという不思議な役割に恵まれました。

続きは裏面をどうぞ。



主宰 冠木友紀子 (かぶきゆきこ)

従来の概念を覆す、自然で美しい通訳技法をお伝えしています
通訳道場★横浜CATS

<https://ycats.linguamusica.jp>

★臨時ニュース★ 本物は本物と出会う。トマティス（仏）とINPP（英）の縁結び

「ユキコ、英国のINPP（神経生理心理学研究所）の学位持っているよね。所長のサリーさんを紹介してくれないか。」フランスのトマティス聴覚発声メソッドの社長、ティエリさんからそんなメールを受け取ったのは去年の今頃。ドーバー海峡挟んでお隣さん同士を遙かジパングから縁結び?!おかげさまで去る5月にポーランド、ワルシャワで開かれたトマティス国際会議の基調講演にサリー・ゴダードさんをお迎えすることができました。講演に先立ってサリーを会場の皆さんにご紹介する係を仰せつかり…考えるのは笑いをとることのみ…バッチリうまくいきました。

トマティスもINPPもそれぞれの分野のパイオニアにしてホンモノ。ホンモノはホンモノと組むものです。去年、ああでもない、こうでもないと唸りながらご紹介メールを書いた甲斐がありました。

通訳道場ではトマティスを外国語ブラッシュアップと発声に活用、INPP書籍の出版を計画しています。素晴らしいホンモノたちとのご縁に感謝です!



ワルシャワの国際会議にて。左から、私、イギリス・INPPのサリーさん、フランス・トマティスのティエリさん

★イベント報告★ 「ルドルフ・シュタイナーの挑戦」京都上映会



↑皆さんの熱気で4月の花冷えが嘘のよう!

←京都旅行中の友人がベトナム料理屋さんでチラシ発見!感謝です。



少し前のことですが、4月7日に無事京都で上映会を開くことができました。京都に土地勘のない私を多くの方々をはじめから終わりまで支えてくださいました。あらためてありがとうございます。会場予約、チラシ配布、当日の会場設営、会計、こまごまとした買い出し、軽食の配膳、片付け…何から何までお世話になりました。この映画は人間の欲望でゆがんだ医療、農業、教育に自然をとり戻そうと仲間と歩む人々のドキュメンタリーとシュタイナーの生涯を重ねた作品です。この日、私には映画の世界と、目の前でかいたいがかいしく働く友人たちとの間の境目がなくなったような気がしました。これは地元では経験したことのない感覚です。友人たちのおかげで満席となり、予備の同時通訳配信機も底をつきました。これまで私にとって京都は「一国際的観光地」以上の存在ではありませんでした。それがこの日を境に「友人たちの住む町」となりました。大いに親しみがわき、嬉しいことです。日帰りもさほど疲れませんでした。

★おススメ★ 「やさしすぎるあなたがお金持ちになる生き方」吉武大輔 フォレスト出版



タイトルはいまいちですが、この本にはもっと深いことが易しく書いてあります。お金持ちになる方法などではなく、自分に合った方法でお金と付き合い、世の為人のためになる選択肢、とでもいしましょうか。この本では、人生航路を「挑戦者」（雇われ）から「老師」（感情体験の達人）に至る道ととらえ、挑戦者の次の段階は「賢者」と「勇者」の二手にわかれている、としています。よくあるアメリカ系自己啓発の「お金のメンタルブロックを取れ!」「目標から逆算して生きる!」といった威勢のいいかけ声は勇者には役立ちます。でも賢者のルートを通るひとにはぴんと来ません。また、すでに老師の境地に居るひとを「挑戦者」以下と誤解しかねません。誰もが自分に合った生き方を知り、少しでもそのように行動したら、世の中がもっと優しくなることでしょう。